

令和4年度(2022年度)

大学院学修の手引き

(大学院講義概要)

西九州大学大学院
生活支援科学研究科

目次

1	令和4年度(2022年度)学年暦及び年間行事予定	1
2	学位について	2
	修士論文執筆要領	10
	修士論文の審査日程	12
	研究倫理審査について	13
3	臨床心理学専攻に関する特記事項	14
4	子ども学専攻に関する特記事項	18
5	栄養学専攻及び地域生活支援学専攻 博士後期課程に関する特記事項	19
6	授業科目及び担当教員一覧	20
7	その他様式等	

1

令和4年度(2022年度)学年暦及び年間行事予定

前 期		修士	博士
4月7日(木)	令和4年度入学式(入学式後、オリエンテーション)	○	○
4月8日(金)	前期授業開始日	○	○
4月15日(金)	「研究指導教員届」提出締切日	○	○
5月10日(火)	開学記念日	○	○
6月末日迄	修士論文中間発表会<<2年次>> ※各専攻で実施	○	
6月末日迄	博士後期課程個別研究報告会<<1~3年次>> ※地域生活支援学専攻		○
7月1日(金)	9月修了予定者学位論文提出締切日<<修士・博士>>	○	○
7月28日(木)	前期授業最終日	○	○
8月5日(金) ` 9月25日(日)	} 夏季休業(夏季休業期間中に前期集中講義を予定)	○	○
9月15日(木)			
後 期		修士	博士
9月26日(月)	後期授業開始日	○	○
9月30日(金)	修士論文題目提出締切日<<1年次>>	○	
10月21日(金) ` 10月23日(日)	} 学園祭 ※10月21日(金)は全学休講	○	○
11月末日迄			
11月末日迄	博士後期課程個別研究報告会<<1年次~3年次>> ※地域生活支援学専攻		○
12月23日(金)	冬季休業前授業終了日	○	○
12月28日(水) ` 1月4日(水)	} 冬季休業	○	○
1月5日(木)			
1月10日(火)	博士学位論文提出締切日<<3年次>>		○
1月10日(火)	月曜振替授業日(第13回)	○	○
1月25日(水)	後期授業最終日	○	○
1月27日(金)	修士論文提出締切日<<2年次>>	○	
2月上旬~中旬	口頭試問<<2年次>>	○	
1月中旬~2月中旬	論文審査<<3年次>>(博士論文提出者のみ) ※口頭試問等、公聴会		○
2月13日(月) ` 2月15日(水)	} 修士論文発表会<<2年次>>	○	
2月16日(木)			
2月24日(金)	修了判定	○	○
2月末日迄	博士後期課程中間発表会<<1年次>> ※栄養学専攻		○
3月17日(金)	令和4年度修了証書・学位記授与式	○	○

2

学位について

大学院で、所定の単位を修得し、かつ修士論文及び博士学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したとき、修士及び博士の学位が授与されます。

学位に付与する専攻分野の名称は、次のとおりです。

栄養学専攻	修士（栄養学）
栄養学専攻	博士（栄養学）
臨床心理学専攻	修士（臨床心理学）
リハビリテーション学専攻	修士（リハビリテーション学）
子ども学専攻	修士（子ども学）
地域生活支援学専攻	修士（生活支援学）
地域生活支援学専攻	博士（生活支援学）
看護学専攻	修士（看護学）

1. 学位申請の手続き（※手続きはすべて本人が行う。代理は不可。）

修 士

- (1) 1年次に教務課に提出した修士論文題目を変更する場合は、巻末の「修士論文題目変更届」にて、教務課に届けなければなりません。
- (2) 修士論文は、P.10「修士論文執筆要領」にしたがって作成してください。
- (3) 修士論文は3部作成し、「学位申請書」を添えて所定の期日までに教務課に提出してください。
- (4) 上記のほかに、口頭試問及び修士論文発表会用の要旨1部を作成し、所定の期日までに教務課に提出してください。

博 士

- (1) 博士論文は、各専攻の「博士後期課程の手引き」にしたがって作成してください。
- (2) 学位論文の提出資格は、博士後期課程の在学期間が当該年度末までに3年以上となり、大学院学則第15条第2項及び第3項に定める単位を修得又は修得見込で、かつ、必要な研究指導を受けたものとしします。
- (3) 学位の授与を受けようとする者は、学位申請書に博士論文、論文目録、博士論文の要旨及び履歴書等を添えて、研究科長に提出してください。申請者の適格性確認や論文受理の可否が決定され、「可」の場合、博士論文審査委員会が発足し、論文の査読・審査及び試験（口頭試問、公聴会等）が行われます。

2. 審査と最終試験

修 士

修士論文の審査は、栄養学専攻、臨床心理学専攻、リハビリテーション学専攻、

子ども学専攻、地域生活支援学専攻、看護学専攻それぞれで行われますので、研究指導教員の指示にしたがって、審査（口頭試問）を受けてください。審査は主査（1人）、副査（2人）の教員によって行われます。

最終試験として、修士論文発表会が毎年度2月に開催されます。修士論文発表会は各専攻ごとに大学院担当教員全員参加のもと、行われます。修士論文を提出し、学位申請書を提出した人は、最終試験として必ず発表をしなければなりません。

博 士

博士論文の審査は、研究科委員会が設置する博士論文審査委員会が行います。博士学位論文の審査基準に基づき、論文の査読、提出論文を中心とした審査（口頭試問等）を行います。

最終試験として開催される公聴会で、申請者による学術講演が実施されます。これを経て審査報告がなされ、最終的に学位授与の可否が決定されます。

※博士後期課程の「学位申請の手続き」と「審査と最終試験」については、別途配付します各専攻の「博士後期課程の手引き」も併せて熟読してください。

審査基準

修士論文評価基準（栄養学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し可否を決定する。

評価項目

1. 表題：内容が適正に表現されているかどうか。
2. 要旨：目的、方法、結果、考察が簡潔にまとめられているかどうか。
3. キーワード：選択が適当であるかどうか。（キーワードは5個程度）
4. 緒言：研究目的、背景が具体的に記されており、その目的、背景に直接関係する文献が記されているかどうか。
5. 実験・調査方法：実験または調査等が追試しうる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、用いた方法が研究目的に沿って正しく選ばれているかどうか。
6. 結果：新しい知見が含まれているか、本論文の結論に対して必要かつ十分な結果が示されているか、図、表は分かりやすく作成されているかどうか。
7. 考察：得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないかどうか、必要な文献が正しく引用されているかどうか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題	3点
2	要旨	10点
3	キーワード	2点
4	緒言	15点
5	実験・調査方法	70点
6	結果	
7	考察	
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

ただし、実験・調査方法、結果、考察の項目の配点は分野ごとに変更してもよいが、それらの基準配点（分母）は明記する。

評価基準

S：100～90点

A：89～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

原則として、栄養学専攻の教員全員の参加で修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

審査基準

修士論文評価基準（臨床心理学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し合否を決定する。

評価項目

1. 表題・キーワード：内容が適正に表現されているかどうか。キーワードの選択が適当であるかどうか。（キーワードは5個程度）
2. 研究目的：背景が具体的に記されており、その目的、背景に直接関係する文献が記されているかどうか。
3. 研究方法：読者が実験または調査等を追試しうる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、用いた方法が研究目的に沿って正しく選ばれているかどうか。
4. 結果・考察：新しい知見が含まれているか、本論文の結論に対して必要かつ十分な結果が示されているか、図、表は分かりやすく作成されているかどうか。
目的と結果が重複記述されていないか。得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないかどうか、必要な文献が正しく引用されているかどうか。
5. 要旨：目的、方法、結果、考察が簡潔にまとめられているかどうか。
6. 作成プロセス：指導教員の指導のもと、計画を立て展開していったかどうか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題・キーワード	5点
2	研究目的	15点
3	研究方法	15点
4	結果・考察	35点
5	要旨	10点
6	作成プロセス	20点
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

評価基準

S：100～90点

A：89～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

原則として、臨床心理学専攻の教員全員の参加で修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

審査基準

修士論文評価基準（リハビリテーション学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し合否を決定する。

評価項目

1. 表題：内容が適正に表現されているかどうか。
2. 要旨：目的、方法、結果、結論が簡潔にまとめられているかどうか。
3. キーワード：選択が適当であるかどうか。（キーワードは5個程度）
4. 緒言：研究の背景、意義、目的が具体的に記されており、それらに直接関係する文献が引用されているかどうか。
5. 研究方法：読者が実験または調査等を追試しうる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、用いた方法が研究目的に沿って正しく選ばれているかどうか。倫理的配慮が適切になされているかどうか。
6. 結果：本論文の結論に対して必要かつ十分な結果が示されているか、図、表は的確に分かりやすく作成されているかどうか。
7. 考察：緒言と結果が重複記述されていないか。得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないかどうか、必要な文献が正しく引用されているかどうか。研究の限界と課題が的確に示されているかどうか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題	5点
2	要旨	10点
3	キーワード	5点
4	緒言	20点
5	研究方法	20点
6	結果	20点
7	考察	20点
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

ただし、研究方法、結果、考察の項目の配点は分野ごとに変更しても良いが、それらの基準配点（分母）は明記する。

評価基準

S：100～90点

A：89～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

審査基準

修士論文評価基準（子ども学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し合否を決定する。

評価項目

1. 表題・キーワード：内容が適正に表現されているかどうか。キーワードの選択が適切であるかどうか。（キーワードは5個程度）
2. 研究目的：背景が具体的に記されており、その目的、背景に直接関係する文献が記されているかどうか。
3. 研究方法：読者が調査等を追試しうる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、用いた方法が研究目的に沿って正しく選ばれているかどうか。
4. 結果・考察：新しい知見が含まれているか、本論文の結論に対して必要かつ十分な結果が示されているか、図、表は分かりやすく作成されているかどうか。
目的と結果が重複記述されていないか。得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないかどうか、必要な文献が正しく引用されているかどうか。
5. 構成・論理展開：研究目的に照らして結論に至るまでの論文の展開が筋道を立てて合理的に整理されているかどうか。
6. 要旨：目的、方法、結果、考察が簡潔にまとめられているかどうか。
7. 作成プロセス：指導教員の指導のもと、計画を立て展開していったかどうか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題・キーワード	5点
2	研究目的	10点
3	研究方法	10点
4	結果・考察	35点
5	構成・論理展開	10点
6	要旨	10点
7	作成プロセス	20点
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

評価基準

S：100～90点

A：89～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

原則として、子ども学専攻の教員全員の参加で修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

審査基準

修士論文評価基準（地域生活支援学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し合否を決定する。

評価項目

1. 表題・キーワード：内容が適正に表現されているかどうか。キーワードの選択が適当であるかどうか。（キーワードは5個程度）
2. 研究目的：背景が具体的に記されており、その目的、背景に直接関係する文献が記されているかどうか。
3. 研究方法：読者が調査等を追試しうる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、用いた方法が研究目的に沿って正しく選ばれているかどうか。
4. 結果・考察：新しい知見が含まれているか、本論文の結論に対して必要かつ十分な結果が示されているか、図、表は分かりやすく作成されているかどうか。目的と結果が重複記述されていないか。得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないかどうか、必要な文献が正しく引用されているかどうか。
5. 構成・論理展開：研究目的に照らして結論に至るまでの論文の展開が筋道を立てて合理的に整理されているかどうか。
6. 要旨：目的、方法、結果、考察が簡潔にまとめられているかどうか。
7. 作成プロセス：指導教員の指導のもと、計画を立て展開していったかどうか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題・キーワード	5点
2	研究目的	10点
3	研究方法	10点
4	結果・考察	35点
5	構成・論理展開	10点
6	要旨	10点
7	作成プロセス	20点
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

評価基準

S：100～90点

A：89～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

原則として、地域生活支援学専攻（博士前期課程）の教員全員の参加で修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

審査基準

修士論文評価基準（看護学専攻）

修士論文は下記の評価基準（評価項目、配点表）を参照し、客観的に採点し合否を決定する。

評価項目

1. 表題・キーワード：内容が適正に表現されているかどうか。キーワードの選択が適当であるか。
(キーワードは5個程度)
2. 研究目的：背景が具体的に記されており、その目的、背景に直接関係する文献が記されているか。
3. 研究方法：読者が追試研究できる程度に、具体的、かつ簡潔に記されており、研究方法是研究目的に沿って適切に選ばれているか。
4. 結果：新しい知見が含まれているか。研究目的に沿って必要かつ十分な結果が示されているか。
図、表は分かりやすく作成されているか。得られた結果の解釈に矛盾、飛躍はないか。文献は正しく引用されているかどうか。
5. 考察：結果を踏まえて、論理的に考察を述べているか。文献を活用しながら執筆者の意見を客観的に考察できているか。
6. 構成・論理展開：研究目的に照らして結論に至るまで、一貫性のある論文の展開になっているか。
7. 要旨：目的、方法、結果、考察が簡潔にまとめられているか。
8. 作成プロセス：指導教員の指導のもとに、研究計画を立案し、研究過程を展開したか。

配点表

	評価項目	配点
1	表題・キーワード	5点
2	研究目的	10点
3	研究方法	10点
4	結果・考察	35点
5	構成・論理展開	10点
6	要旨	10点
7	作成プロセス	20点
	合計	100点

左表の各評価項目について、配点を満点として採点し、それらの点数を合計して評価する。

評価基準

S：100～90点

A：90～80点

B：79～70点

C：69～60点

D：59点以下

S～Cを合格とし、Dは不合格とする。

口頭試問

原則として、看護学専攻の教員全員の参加で修士論文発表会の前に実施し、その評価は修士論文評価に反映させる。

修士論文執筆要領

(1) 論文作成

第1年次 4月の第3週目までに「研究指導教員届」を教務課に提出し、7月までに研究指導教員の指導の下に自己の研究テーマを決め、9月末までに「修士論文題目届」を教務課に提出してください。

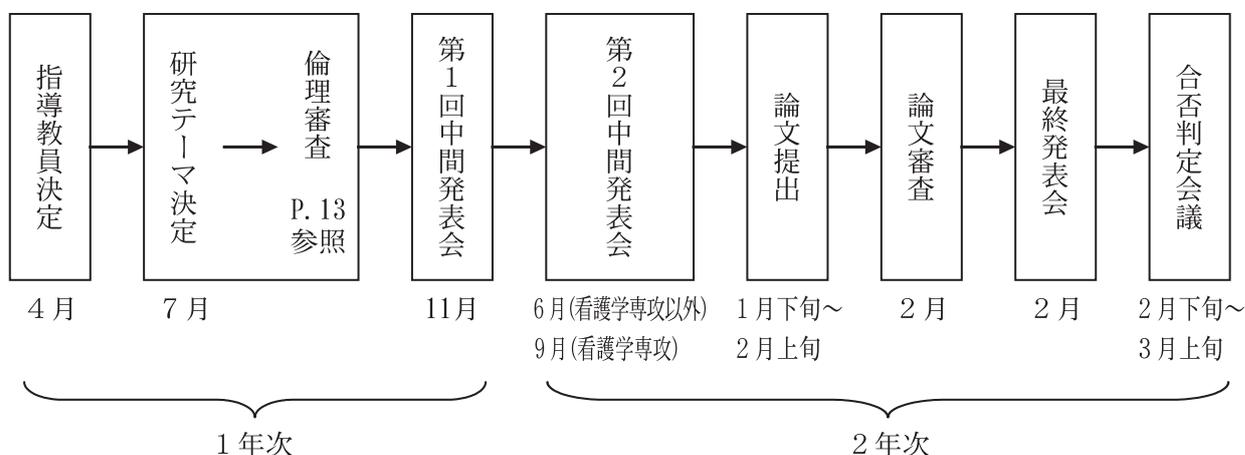
倫理審査が必要な研究は10月を目途に倫理委員会による審査を受けてください。※詳細についてはP.13をご参照ください。なお、11月中に中間発表会（第1回）を行います。

第2年次 6月または9月中に研究の実施状況の中間発表会（第2回）を行います。年明けの1月末に論文提出を受け、2月中に論文審査会、最終発表会及び合否判定会議を行います。

(2) 論文審査

研究科委員会で選出された3名以上の審査員が修士論文の審査を行います。論文審査及び成績評価は研究科委員会が行い、研究科長が決定します。

(3) 研究指導のモデルスケジュール



(4) 枚数

制限はありません。(横書き)

(5) 様式

手書き、パソコンともに可です。

(6) 文字等

パソコンの文字は10.5Pを使用、1ページ40字×40行以内に収めてください。

見やすい構成にしてください。

(7) 装丁

提出の際は、表紙をつけ、左とじにしてください。それぞれの表紙には黒色で題目、学籍番号、氏名、指導教員等を記入してください。

(8) 提出部数

修士論文 3部 (1部に学位申請書を添付)

要旨 1部 (口頭試問及び修士論文発表会の前に、各1部提出してください。提出期限については別途指示いたします。)

(注) 学位申請書は教務課にて配布いたします。

(9) 令和4年度（2022年度）提出期限

2023年1月27日（金）16時まで 時間厳守

※締切日以外は、17時まで受付いたします。ただし、土・日・祝日及び休業日は受付いたしません。

(10) 提出先

教務課（論文は、提出部数ごとに必ず封筒に厳封し、受け取り票を受領してください。）

(11) 修士論文発表会報告要旨

提出期限：2023年2月8日（水）16時まで 時間厳守

※要旨作成要領

- ・ A4（横書き）で5枚以内に収めてください。
- ・ 1枚目上部に、題目、学籍番号、氏名を忘れずに記入してください。
- ・ 目次をそえてもかまいません。

(12) 修士論文製本の提出

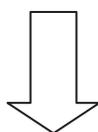
修士論文は、最終的に製本したものの1部を提出していただき、大学図書館に保管いたします。
製本についての詳細は、別途ご連絡いたします。

2022年度修士論文の審査日程

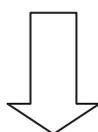
2023年1月27日(金)16時まで

修士論文提出 (3部)

※学位申請書も併せて提出



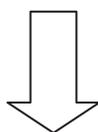
修士論文査読期間及び口頭試問期間



2023年2月13日(月)～2023年2月15日(水)

※専攻により、日程が変わります。

修士論文発表会 (修士論文最終試験)



修士論文合否判定

研究倫理審査について

(1) 研究倫理委員会について

修士論文または博士論文の作成に際しては、指導教員とともに、「チェックシート」(P26～)^{*2}に基づき、西九州大学研究倫理委員会での研究倫理審査の必要性を確認してください。

申請を必要とする場合は、必ず指導教員と一緒に「研究倫理審査申請書」(P16～)^{*2}及び関係資料（「研究計画書」(P29)^{*2}、「研究協力依頼書」(P30)^{*2}等）を準備してください。

申請された研究内容によって、審査方法（通常審査・迅速審査）が異なります。

通常審査に該当する場合は、研究倫理委員会が指定した日時に、委員会へ出席（大学院生又は指導教員のどちらかの出席が必要。両名の出席でも可。）し、研究計画の説明及び委員からの質問に答えなければなりません。委員会への出席または申請書類提出後、すぐに研究を開始してよいというわけではありません。学長からの承認通知書（承認番号を記載。P34^{*2}）を受領した後に研究を開始してください。

なお、委員会への出席依頼及び開催日時等は、事務局より指導教員を通じて通知します。

また、研究開始後も報告書の提出が必要となります。長期に渡る研究の場合、原則として毎年1回、「研究実施状況報告書」(P37)^{*2}により、研究の進捗状況を学長へ報告しなければなりません。研究が終了した場合には、必ず「研究終了報告書」(P41)^{*2}を学長に提出してください。

(2) 審査の種類、書類の提出期限、方法について (P7)^{*2}

	通常審査	迅速審査
委員会	3月期を除く毎月1回	3月期を除く毎月2回
審査方法	委員会での対面による審査	書類のみの審査
書類提出締め切り	月1回。毎月15日、17時	月2回。毎月15日、末日17時
提出先	各キャンパス総務課窓口	
提出方法	・捺印済の書類一式を提出してください。 ・ホチキス留めではなく、クリップ留めをお願いします。 ・郵送、電子メールでの受付はしません。社会人大学院生等で時間内に提出できない場合は、指導教員を通じて提出してください。	
注意	・委員、事務局スタッフの交代等のため年度を跨ぐ審査は行いません。 ・年度内最終提出締切日は2月15日です。 ・3月提出の申請書類は新年度一回目（5月最終週）の審査です。	

3) 様式等の関連資料について

共有フォルダ（■全学教材▶西九_教材▶大学院生用▶研究倫理審査関係）に保管しています。

※1 令和4年度より様式等を変更していますので、必ず最新の様式を使用してください。

詳細は、「西九州大学研究倫理審査申請ガイドブック」を参照してください。

※2 本ページ説明文中のページ数は、「西九州大学研究倫理審査申請ガイドブック」のページ数を示します。

臨床心理学専攻の特徴

- ・心の専門家である国家資格公認心理師および臨床心理士を養成する。臨床心理士養成に関しては、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定大学院の指定を受けている。課程修了者は、臨床心理士の受験資格を得ることができる。また、指定された科目を修得すれば公認心理師の受験資格を得ることができる。
- ・地域の医療機関、教育機関、福祉施設、附属の西九州大学臨床心理相談センターなどにおける臨床実習を重視している。同時に経験豊富な専門スタッフによるスーパーヴィジョン体制を充実させ、きめ細かい指導を行っている。

臨床心理学専攻の履修方法

修士課程の修了には「必修科目24単位」及び「選択科目より12単位以上」、合計36単位以上を修得し、修士論文の最終試験に合格する必要がある。

共通科目の「生活支援科学特論」は必修で2単位を履修する。

「基礎分野」は9科目（必修14単位、選択2単位）から7科目14単位以上を履修する。

「展開分野」は選択17科目から6科目12単位以上を履修する。

「特別研究」は必修で、8単位を履修する。

臨床心理学専攻の修士論文作成要領

- ① 修士論文を提出するには、1年次前期から2年次後期に開講される「特別研究」を履修しなければならない。
- ② 修士論文の指導教員は臨床心理学専攻の研究指導教員とする（主査、副査も含む）。
- ③ 院生はあらかじめ修士論文の指導を希望する教員の内諾を得ておくこと。
- ④ 院生は修士論文の課題を1年次の9月末日までに指導教員の了解を得て教務課に提出する。
- ⑤ 研究の実施にあたっては、学内倫理委員会における倫理審査の承認を受けておくこと。
- ⑥ 題目を変更する場合は「修士論文題目変更届」にて、教務課に届けなければならない。
- ⑦ 修士論文は、教務課で配付する「修士論文執筆要領」に従って作成する。
- ⑧ 修士論文3部を作成し、「学位申請書」を添えて期日までに教務課に提出する。
- ⑨ 上記のほかに、口頭試問及び修士論文発表会用の要旨1部を作成し、所定の期日までに教務課に提出する。

臨床心理学専攻授業科目一覧

分野	授 業 科 目	配当 年次	単位数		備 考
			必修	選択	
共通	生活支援科学特論	1	2		
基礎 分野	臨床心理学特論Ⅰ	1	2		
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	2		
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	2		
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1	2		
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		
	臨床心理基礎実習	1	2		
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅰ)	2		1	
	臨床心理実習Ⅱ	2		1	
展開 分野	心理学研究法特論	1・2		2	
	臨床心理学研究法特論	1・2		2	
	教育心理学特論	1・2		2	
	発達心理学特論	1・2		2	
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	
	臨床家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1・2		2	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	
	老年心理学特論	1・2		2	
	障害児(者)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	
	投映法特論	1・2		2	
	心理療法特論	1・2		2	
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	
	臨床心理地域援助特論	1・2		2	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2		2	
	心理実践実習Ⅱ	1～2		5	
心理実践実習Ⅲ	1～2		4		
研究 演習	特別研究	1～2	8		
開講単位数			24	41	

(履修方法)
必修科目24単位、選択科目
より12単位以上、合計36単
位以上修得すること。

公認心理師受験資格

公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、入学する前までに、公認心理師法施行規則第1条に定める、公認心理師となるために必要な25科目（公認心理師の職責、心理学概論、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学統計法、心理学実験、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、感情・人格心理学、神経・生理心理学、社会・集団・家族心理学、発達心理学、障害者・障害児心理学、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、身体の構造と機能及び疾病、精神疾患とその治療、関係行政論、心理演習、心理実習）を修得し、卒業しておかなければなりません。

また、生活支援科学研究科臨床心理学専攻に入学後、以下の表に示している12科目（28単位）の必修科目を修得する必要があります。

公認心理師国家試験の受験資格に関する科目表

文科省・厚労省で指定科目		本学大学院開講科目	必修	選択	備考	
必修科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2		450時間以上	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	障害児（者）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2			
	教育分野に関する理論と支援の展開	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2			
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2			
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2			
	心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2			
	心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2			
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	臨床家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2			
	心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	2			
	心理実践実習		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	1		
			心理実践実習Ⅱ	5		
			心理実践実習Ⅲ	4		

臨床心理士受験資格

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の受験資格を得るためには、以下の条件をすべて満たす必要があります。

- (1) (財)日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院の修士課程を修了すること。
- (2) 修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること。
- (3) 指定された科目を26単位以上修得すること。
- (4) 第一種指定大学院修了者は、心理臨床経験は問われない。

(第二種指定大学院修了者は、修了後1年以上の心理臨床経験があること。)

本学は、第一種指定大学院として認定されている。

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士受験資格に関する科目表

協会指定科目		単位	本学大学院開講科目	履修年次	単位数		備考
					必	選	
必修科目	臨床心理学特論	2	臨床心理学特論Ⅰ	1	2		16単位以上
		2	臨床心理学特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理面接特論	2	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	2		
		2	臨床心理面接特論Ⅱ	2	2		
	臨床心理査定演習	2	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2		
		2	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		
	臨床心理基礎実習	2	臨床心理基礎実習	1	2		
	臨床心理実習	2	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	2		1	
臨床心理実習Ⅱ			2		1		
選択必修科目	A群	2	心理学研究法特論	1・2	2		各群（A～E）から2単位以上、計10単位以上選択必修
			心理学研究法特論				
		2	臨床心理学研究法特論	1・2	2		
	B群	2	発達心理学特論	1・2	2		
			発達心理学特論				
			学習心理学特論				
			認知心理学特論				
			比較行動学特論				
	C群	2	教育心理学特論	1・2	2		
			教育心理学特論				
			社会心理学特論				
			人間関係学特論				
			社会病理学特論				
	D群	2	臨床家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2	2		
		2	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2		
		2	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2		
			精神医学特論				
		2	老年心理学特論	1・2	2		
		2	障害児(者)心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2		
	E群		精神薬理学特論				
2		投映法特論	1・2	2			
2		心理療法特論	1・2	2			
		心理療法特論					
2		臨床心理地域援助特論	1・2	2			

4

子ども学専攻に関する特記事項

小学校教諭専修免許、幼稚園教諭専修免許

子ども学専攻では、次の条件を満たすことにより、本大学院修了時に小学校教諭専修免許状及び幼稚園教諭専修免許状を取得することができます。

- (1) 原則として、大学院入学前に、該当する校種の一種免許状を取得していること。
- (2) 本大学院において修士の学位を取得することができること。
- (3) 「小学校専修免許状及び幼稚園教諭専修免許状取得に必要な授業科目一覧」に示す所定の科目を履修し単位を修得していること。

小学校教諭専修免許状及び幼稚園教諭専修免許状の取得を希望する学生は、入学後、授業科目履修登録の際に、教務課にその旨申し出てください。

小学校専修免許状及び幼稚園教諭専修免許状取得に必要な授業科目一覧

授 業 科 目	学年 配当	単位数	免許の種類			
			小学校		幼稚園	
子ども学特論	1	2	必修		必修	
子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）	1	2			必修	
子ども学実践演習Ⅱ（児童期）	1	2	必修			
幼児教育学特論	1	2			選択	※
教育史特論	1	2	選択	※	選択	
教育社会学特論	1	2	選択		選択	
教育制度特論	1	2	選択		選択	
教育心理学特論	1	2	選択		選択	
発達心理学特論	1	2	選択		選択	
カリキュラム特論	1	2	選択		選択	
学校マネジメント特論	1	2	選択		選択	
特別支援教育特論	1	2	選択		選択	
言語教育特論	1	2	選択			
社会科教育特論	2	2	選択			
環境教育特論	1	2	選択			
算数教育特論	1	2	選択			
造形教育特論	2	2	選択			
音楽教育特論	1	2	選択			
身体教育特論	1	2	選択			
子どもの創作表現特論	1	2			選択	
子どもの食育特論	1	2			選択	
子どもの保健特論	1	2			選択	
子どもの臨床心理特別演習	1	2	選択		選択	
障害児保育特論	1	2		選択		
			24単位		24単位	

5

栄養学専攻及び地域生活支援学専攻博士後期課程に関する特記事項

栄養学専攻及び地域生活支援学専攻博士後期課程に関する各種事項についての詳細は、別途配付されます各専攻の「博士後期課程の手引き」をご参照ください。

6

授業科目及び担当教員一覧

シラバスはホームページで公開しております。本学ホームページにて確認してください。

西九州大学ホームページURL <http://www.nisikyu-u.ac.jp/>

【栄養学専攻博士前期課程】

分野	授業科目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考
				必修	選択	
研究 演習	特別研究	1~2	通	8		堀田 徳子 准教授 久野 一恵 教授 横尾美智代 教授 安部 恵代 教授 齋木まど香 講師 四元 博晃 教授 安田みどり 教授 三嶋 敏雄 教授 草野 洋介 准教授
共 通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 横尾美智代 教授 田中 麻里 教授 黒田 研二 教授 安田みどり 教授 大川 裕行 教授 太田 秀樹 教授
基 礎 分 野	食品機能科学特論	1	前	2		三嶋 敏雄 教授
	食品衛生学特論	1	前	2		齋木まど香 講師
	食品分析化学特論	1	後	2		安田みどり 教授
	生理学特論	1	前	2		草野 洋介 准教授
	基礎医学特論	1	前	2		安部 恵代 教授
	基礎栄養学特論	1	前	2		四元 博晃 教授
	公衆衛生学特論	1	後	2		横尾美智代 教授
展 開 分 野	実践栄養学特論	1・2	前	2		休 講
	臨床栄養学特論	1・2	後	2		安部 恵代 教授
	臨床栄養治療学特論	1・2	後	2		安武健一郎 (兼任)
	栄養教育学特論	1・2	後	2		堀田 徳子 准教授
	地域栄養ケア活動特論	1・2	後	2		久野 一恵 教授
	栄養学研究法 (情報処理を含む)	1・2	前	2		堀田 徳子 准教授 古賀 浩二 教授
開 講 数	15科目			10	26	(修了要件) 必修10単位、選択20単位以上、合計30単 位以上修得し、必要な研究指導を受け、 修士論文の審査及び試験に合格すること。

【栄養学専攻（博士後期課程）】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考
				必修	選択	
研究指導	栄養学特別研究Ⅰ	1	通	4		久木野憲司 教授 堀田 徳子 准教授 久野 一恵 教授 安田みどり 教授 安部 恵代 教授 草野 洋介 准教授 柳田 晃良 特任教授
	栄養学特別研究Ⅱ	2	通	4		久木野憲司 教授 堀田 徳子 准教授 久野 一恵 教授 安田みどり 教授 安部 恵代 教授 草野 洋介 准教授 柳田 晃良 特任教授
	栄養学特別研究Ⅲ	3	通	4		久木野憲司 教授 堀田 徳子 准教授 久野 一恵 教授 安田みどり 教授 安部 恵代 教授 草野 洋介 准教授 柳田 晃良 特任教授
専攻共通科目	総合分野 食・健康と栄養の総合特講	1	前	2		久木野憲司 教授 堀田 徳子 准教授 四元 博晃 教授 久野 一恵 教授 安田みどり 教授 横尾美智代 教授 三嶋 敏雄 教授 安部 恵代 教授 草野 洋介 准教授 柳田 晃良 特任教授 齋木まど香 講師 管原 正志 教授(兼任) 山口 裕嗣 講師(兼任)
専門科目	分 食品科学 食品科学特講	1	後	2		四元 博晃 教授 安田みどり 教授 三嶋 敏雄 教授 柳田 晃良 特任教授 齋木まど香 講師
	分 健康科学 健康科学特講	1	後	2		久木野憲司 教授 安部 恵代 教授 管原 正志 教授(兼任) 山口 裕嗣 講師(兼任)
	分 実践栄養学 実践栄養学特講	1	後	2		堀田 徳子 准教授 久野 一恵 教授 横尾美智代 教授 草野 洋介 准教授
開講数	7科目			14	6	(修了要件) 必修14単位、選択は「食品科学特講」、 「健康科学特講」、「実践栄養学特講」から 1科目2単位、合計16単位を修得し、 博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【臨床心理学専攻】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考	
				必修	選択		
演習研究	特別研究	1~2	通	8		太田 秀樹 教授 西村 喜文 教授	岡嶋 一郎 教授 赤川 力 准教授
共通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 横尾美智代 教授 田中 麻里 教授 黒田 研二 教授	安田みどり 教授 大川 裕行 教授 太田 秀樹 教授
基礎分野	臨床心理学特論Ⅰ	1	前	2		赤川 力 准教授	
	臨床心理学特論Ⅱ	1	後	2		未 定	
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	前	2		赤川 力 准教授	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	後	2		西村 喜文 教授	
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	前	2		中園 照美 准教授	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	後	2		太田 秀樹 教授	
	臨床心理基礎実習	1	通	2		太田 秀樹 教授	中園 照美 准教授
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	2	通		1	岡嶋 一郎 教授 利光 恵 准教授	西村 喜文 教授 赤川 力 准教授
臨床心理実習Ⅱ	2	通		1	太田 秀樹 教授	赤川 力 准教授	
展開分野	心理学研究法特論	1・2	前		2	岡嶋 一郎 教授	
	臨床心理学研究法特論	1・2	後		2	田中 新正（兼任）	
	教育心理学特論	1・2	後		2	岩木 信喜（兼任）	
	発達心理学特論	1・2	後		2	遠藤 利彦（兼任）	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2	後		2	日高みちえ（兼任）	
	臨床家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2	後		2	中園 照美 准教授	
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2	前		2	小山 裕子（兼任）	
	老年心理学特論	1・2	前		2	赤川 力 准教授	
	障害児（者）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2	後		2	岡嶋 一郎 教授	
	投映法特論	1・2	前		2	中園 照美 准教授	
	心理療法特論	1・2	前		2	西村 喜文 教授	
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2	前		2	牧 正興（兼任）	
	臨床心理地域援助特論	1・2	前		2	平川 忠敏（兼任）	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2	前		2	古賀 靖之（兼任）	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	前		2	池田 知子（兼任）	
	心理実践実習Ⅱ	1~2	通		5	太田 秀樹 教授 西村 喜文 教授 中園 照美 准教授	岡嶋 一郎 教授 利光 恵 准教授 赤川 力 准教授
	心理実践実習Ⅲ	1~2	通		4	太田 秀樹 教授 西村 喜文 教授 中園 照美 准教授	岡嶋 一郎 教授 利光 恵 准教授 赤川 力 准教授
開講数	28科目			24	41	(修了要件) 必修科目24単位、選択科目より12単位以上、合計36単位以上修得し、修士論文の審査及び試験に合格すること。	

【リハビリテーション学専攻】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考		
				必修	選択			
研究演習	特別研究	1~2	通	8		宮原 洋八 教授 久保 温子 教授 大田尾 浩 教授 宮本 明 教授 東嶋美佐子 特任教授 小松 洋平 准教授 八谷 瑞紀 准教授 中村 雅俊 准教授	小浦 誠吾 教授 大川 裕行 教授 原口 健三 教授 庄野菜穂子 特命教授 押川 武志 准教授 松谷 信也 准教授 藤原 和彦 准教授	
共通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 横尾美智代 教授 田中 麻里 教授 黒田 研二 教授	安田みどり 教授 大川 裕行 教授 太田 秀樹 教授	
基礎分野	リハビリテーション研究法特論	1	前	2		宮原 洋八 教授		
	リハビリテーション総合演習	1	前	2		大川 裕行 教授 中村 雅俊 准教授	東嶋美佐子 特任教授	
展 開 分 野	身体機能障害領域	身体機能特論	1・2	前		2	岸川 由紀 講師	
		高齢者身体機能支援特論	1・2	前		2	大田尾 浩 教授	
		生涯発達支援特論	1・2	前		2	久保 温子 教授	
		高齢者障害理学療法特論	1・2	前		2	宮原 洋八 教授	
		中枢神経障害理学療法特論	1・2	後		2	八谷 瑞紀 准教授	
		スポーツ健康支援特論	1・2	前		2	大川 裕行 教授	
		機能障害支援評価学特論	1・2	後		2	宮本 明 教授	
機能障害・精神領域	高次脳機能障害作業療法特論	1・2	前		2	松谷 信也 准教授	松尾 萌美 講師	
	認知症性障害作業療法特論	1・2	後		2	押川 武志 准教授		
	精神機能障害学特論	1・2	前		2	小松 洋平 准教授		
	精神機能障害作業療法特論	1・2	後		2	原口 健三 教授		
	健康運動学特論	1・2	前		2	庄野菜穂子 特命教授		
生活機能障害領域	生活活動障害系理学療法特論	1・2	後		2	中村 雅俊 准教授		
	生活行為障害系作業療法特論	1・2	後		2	東嶋美佐子 特任教授	植田 友貴 講師	
	地域生活支援特論	1・2	後		2	藤原 和彦 准教授	仙波 梨沙 講師	
	フィットセラピー特論	1・2	後		2	小浦 誠吾 教授		
開講数	20科目			14	32	(修了要件) 必修14単位、展開分野の自ら専攻する領域から3科目6単位以上、合計30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。		

【子ども学専攻】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考	
				必修	選択		
研究演習	特別研究	1~2	通	8		赤星まゆみ 教授 田中 麻里 教授 松井 克行 教授 松本 大輔 准教授 草場 聡宏 准教授	高尾 兼利 教授 櫻井 琴音 教授 上野 景三 教授 飯盛 啓生 准教授
共通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 横尾美智代 教授 田中 麻里 教授 黒田 研二 教授	安田みどり 教授 大川 裕行 教授 太田 秀樹 教授
基幹分野	子ども学特論	1	前	2		赤星まゆみ 教授 上野 景三 教授	高尾 兼利 教授 三島 正英 (兼任)
	子ども学実践演習Ⅰ (幼児期)	1	後	2		田中 麻里 教授 櫻井 京子 准教授	櫻井 琴音 教授 新井 馨 准教授
	子ども学実践演習Ⅱ (児童期)	1	後	2		松本 大輔 准教授 飯盛 啓生 准教授	松井 克行 教授 草場 聡宏 准教授
教育分野	幼児教育学特論	1	後	2		赤星まゆみ 教授	
	教育史特論	1	前	2		香川せつ子 (兼任)	
	教育社会学特論	1	後	2		山田 浩之 (兼任)	
	教育制度特論	1	後	2		平田 淳 (兼任)	
	教育心理学特論	1	前	2		井邑 智哉 (兼任)	
	発達心理学特論	1	前	2		三島 正英 (兼任)	
	カリキュラム特論	1	前	2		赤星まゆみ 教授	
	学校マネジメント特論	1	後	2		高妻紳二郎 (兼任)	
特別支援教育特論	1	後	2		日野久美子 特任教授 (予定)		
教科・領域分野	言語教育特論	1	前	2		宇賀神 一 講師	
	社会科教育特論	2	前	2		松井 克行 教授	
	環境教育特論	1	後	2		飯盛 啓生 准教授	
	算数教育特論	1	後	2		草場 聡宏 准教授	
	造形教育特論	2	前	2		新井 馨 准教授	
	音楽教育特論	1	前	2		櫻井 琴音 教授	
	身体教育特論	1	後	2		松本 大輔 准教授	
	子どもの創作表現特論	1	前	2		櫻井 琴音 教授 新井 馨 准教授	松本 大輔 准教授
	子どもの食育特論	1	前	2		堀田 徳子 准教授 (兼任)	
	子どもの保健特論	1	後	2		小柳 康子 (兼任)	
支援分野	学校ソーシャルワーク特論	2	前	2		休 講	
	児童家庭支援特論	1	前	2		田中 麻里 教授	
	障害児保育特論	1	前	2		田中 麻里 教授	
	子育て支援特別演習	2	後	2		田中 麻里 教授	
	子どもの臨床心理特別演習	1	後	2		高尾 兼利 教授	
開講数	29科目			12	52	(修了要件) 必修12単位、選択は基幹・教育・教科・支援の各分野から2単位以上を含む18単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び試験に合格すること。	

【地域生活支援学専攻博士前期課程】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考
				必修	選択	
研究 指導	特別研究	1~2	通	8		田中 豊治 教授 管原 正志 教授 井本 浩之 教授 山田 力也 教授 坂田 周一 特任教授 栗原 淳 特任教授 占部 尊士 准教授 加藤 稔子 准教授 木場 千春 准教授 山口 裕嗣 講師 加登田恵子 特任教授 (予定)
共通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 安田みどり 教授 横尾美智代 教授 大川 裕行 教授 田中 麻里 教授 太田 秀樹 教授 黒田 研二 教授
基礎 分野	地域生活支援学特論	1	後	2		加登田恵子 特任教授 (予定)
	地域生活支援実践研究	1	前	2		滝口 真 (兼任)
	社会福祉学原理特論	1	前	2		滝口 真 (兼任)
	地域社会組織特論	1	後	2		田中 豊治 教授
	地域再生・創生特論	1	後	2		永吉 守 (兼任)
	生活哲学特論	1	後	2		井本 浩之 教授
	健康科学特論	1	後	2		近藤 芳昭 教授
	生涯学習特論	1	後	2		上野 景三 教授 (兼担)
	生活支援政策特論	1	後	2		木場 千春 准教授
展開 分野	高齢者福祉特論	1・2	後	2		休 講
	介護福祉特論	1・2	前	2		加藤 稔子 准教授
	医療福祉特論	1・2	前	2		占部 尊士 准教授
	精神保健福祉特論	1・2	後	2		黒田 研二 教授(兼担)
	障害者福祉特論	1・2	後	2		滝口 真 (兼任)
	教育福祉特論	1・2	後	2		松田 次生 (兼任)
	生涯スポーツ支援特論	1・2	前	2		栗原 淳 特任教授
	健康スポーツ特論	1・2	後	2		管原 正志 教授
	地域支援スポーツ科学特論	1・2	前	2		山田 力也 教授
	健康運動支援特論	1・2	後	2		山口 裕嗣 講師
	身体運動学特論	1・2	前	2		甲木 秀典 講師
開講 数	22科目			10	40	(修了要件) 必修10単位、選択より20単位以上、合計 30単位以上修得し、必要な研究指導を受 け、修士論文の審査及び試験に合格する こと。

【地域生活支援学専攻博士後期課程】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考
				必修	選択	
特別演習	特別研究Ⅰ	1	通	4		宮原 洋八 教授 田中 豊治 教授 管原 正志 教授 上野 景三 教授 白田久美子 教授 坂田 周一 特任教授 加登田恵子 特任教授 (予定)
	特別研究Ⅱ	2	通	4		宮原 洋八 教授 田中 豊治 教授 管原 正志 教授 上野 景三 教授 白田久美子 教授 坂田 周一 特任教授 加登田恵子 特任教授 (予定)
	特別研究Ⅲ	3	通	4		宮原 洋八 教授 田中 豊治 教授 管原 正志 教授 上野 景三 教授 白田久美子 教授 坂田 周一 特任教授 加登田恵子 特任教授 (予定)
原理分野	地域生活支援学特殊研究 (1) 地域生活支援学原理	1	前	2		坂田 周一 特任教授
	地域生活支援学特殊研究 (2) 地域社会における関係性の視点 と枠組み	1	後		2	永吉 守 (兼任)
	地域生活支援学特殊研究 (3) 地域社会における心理的諸問題 の視点と枠組み	1	後		2	未 定
	地域生活支援学特殊研究 (4) 地域社会組織の視点と枠組み	1	前		2	田中 豊治 教授
	地域生活支援学特殊研究 (5) 地域社会政策の視点と枠組み	1	前		2	阿部 誠 (兼任)
展開分野	地域生活支援学特殊講義 (1) 地域創生人材育成の視点と方法	1・2	前		2	井本 浩之 教授
	地域生活支援学特殊講義 (2) 地域社会組織化の視点と方法	1・2	前		2	休 講
	地域生活支援学特殊講義 (3) 地域高齢者支援の視点と方法	1・2	後		2	宮原 洋八 教授
	地域生活支援学特殊講義 (4) 地域障がい者支援の視点と方法	1・2	前		2	滝口 真 (兼任)
	地域生活支援学特殊講義 (5) 地域健康支援の視点と方法	1・2	前		2	管原 正志 教授
	地域生活支援学特殊講義 (6) 地域スポーツ支援の視点と方法	1・2	後		2	山田 力也 教授
	地域生活支援学特殊講義 (7) 地域身体機能支援の視点と方法	1・2	前		2	山口 裕嗣 講師
	プレFD：大学教育実践プログラム	1・2・3	前		1	管原 正志 教授 (予定) 田中 豊治 教授 (予定) 井本 浩之 教授 (予定) 山田 力也 教授 (予定) 山口 裕嗣 講師 (予定)
開講数	16科目			14	2 3	(修了要件) 必修14単位、選択は原理分野及び展開分野から6単位以上、合計20単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び試験に合格すること。

【看護学専攻】

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考		
				必修	選択			
研究演習	特別研究	1~2	通	8		白田久美子 教授 黒田 研二 教授 鷹居樹八子 特任教授 小林 幸恵 准教授 葛原 誠太 講師 森本眞寿代 講師 未 定	中島 洋子 教授 岡崎美智子 特任教授 馬場 才悟 准教授 藤田 史恵 准教授 平原 直子 講師 未 定	
共通	生活支援科学特論	1	前	2		井本 浩之 教授 横尾美智代 教授 田中 麻里 教授 黒田 研二 教授	安田みどり 教授 大川 裕行 教授 太田 秀樹 教授	
基礎分野	看護学研究Ⅰ	1	前	2		藤田 史恵 准教授	未 定	
	看護学研究Ⅱ	1	後	2		黒田 研二 教授	馬場 才悟 准教授	
	理論看護学	1	前		2	中島 洋子 教授	岡崎美智子 特任教授	
	医療倫理学	1	後		2	岡崎美智子 特任教授 満岡 聡 (兼任)	北原 悦子 (兼任)	
	看護教育学特論	1	前		2	岡崎美智子 特任教授 管原 正志 教授(兼任)	鷹居樹八子 特任教授 北原 悦子 (兼任)	
	看護教育方法特論	1	後		2	岡崎美智子 特任教授 北原 悦子 (兼任)	鷹居樹八子 特任教授 未 定	
	家族看護援助論	2	前		2	中島 洋子 教授 未 定	平原 直子 講師	
	病態生理学特論	1	前		2	安部 恵代 教授(兼任) 向井 常博 (兼任)	草野 洋介 特命教授(兼任)	
	リハビリテーション特論	1	前		2	大田尾 浩 教授(兼任)		
	臨床薬理学特論	1	後		2	藤戸 博 (兼任)		
	保健医療福祉連携特論	2	前		2	中島 洋子 教授 池田佐知子 講師	黒田 研二 教授 満岡 聡 (兼任)	
展開分野	生活支援看護学領域	地域在宅看護学特論	1	前		2	池田佐知子 講師	未 定
		地域在宅看護学援助特論	1	後		2	池田佐知子 講師	未 定
		地域在宅看護学演習	2	前		4	池田佐知子 講師	未 定
		老年看護学特論	1	前		2	中島 洋子 教授	葛原 誠太 講師
		老年看護学援助特論	1	後		2	中島 洋子 教授	葛原 誠太 講師
		老年看護学演習	2	前		4	中島 洋子 教授	葛原 誠太 講師
	実践看護学領域	基盤看護学特論	1	前		2	岡崎美智子 特任教授 小林 幸恵 准教授	鷹居樹八子 特任教授 北原 悦子 (兼任)
		基盤看護学援助特論	1	後		2	岡崎美智子 特任教授 小林 幸恵 准教授	鷹居樹八子 特任教授 北原 悦子 (兼任)
		基盤看護学演習	2	前		4	岡崎美智子 特任教授 小林 幸恵 准教授	鷹居樹八子 特任教授

展開分野	実践看護学領域	療養支援看護学特論	1	前	2	白田久美子 教授 藤田 史恵 准教授	馬場 才悟 准教授 森本眞寿代 講師
		療養支援看護学援助特論	1	後	2	白田久美子 教授 藤田 史恵 准教授	馬場 才悟 准教授 森本眞寿代 講師
		療養支援看護学演習	2	前	4	白田久美子 教授 藤田 史恵 准教授	馬場 才悟 准教授 森本眞寿代 講師
開講数	25科目		14	50	(修了要件) 必修科目14単位、基礎分野の選択科目より6単位以上、展開分野の自ら専攻する看護学特論、看護学援助特論、看護学演習の3科目8単位、この選択した科目以外のいずれかの看護学特論又は看護学援助特論から2単位以上(あわせて10単位以上)、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。		

【大学院外国人留学生科目】 ※修士課程及び博士前期課程

分野	授 業 科 目	学年 配当	開 講 期	単位数		備 考
				必修	選択	
共 留 学 生 科 目 通	日本語による研究支援 (基礎)	1	前		1	古賀 弘毅 (兼任)
	日本語による研究支援 (応用)	1	後		1	古賀 弘毅 (兼任)

学 籍 簿

＜西九州大学大学院＞

学籍番号	※本欄は記入不要		ふりがな				
			氏名	(男・女)			
本籍	都道府県	年 月 日生					
入学後の 現住所	(〒 -) TEL	- -	携帯番号	- -			
変更後の 現住所	(〒 -) TEL	- -	携帯番号	- -			
保証人	ふりがな			続柄	現住所	(〒 -) TEL 携帯番号	
	氏名						
履歴	学歴	年 月 (国・市・区・町・村・私) 立					中学卒業
		年 月 (国・都・道・府・県・市・私) 立					高校卒業
		年 月					
		年 月					
	職歴	年 月					
		年 月					
		年 月					
		年 月					
学籍事項	2022年 4月 7日 生活支援科学研究科					学専攻	
	年 月 日					入学	
	年 月 日						
	年 月 日						
	年 月 日						
家族連絡先	ふりがな 氏名	(続柄)					
	現住所	〒 -	自宅電話 - - 携帯番号 - -				
上記以外の緊急時の連絡先があればご記入ください。	ふりがな 氏名	(続柄)		電話番号等	- - (自宅・勤務先) 何れかに○ 勤務先の場合(勤務先名 携帯電話 - -)		
備考							

写 真

縦4cm×横3cm

正面脱帽・背景無地

3ヶ月以内のもの
白黒・カラー写真可
裏面に氏名を記入

◎ここに記載された内容は、本学における修学のために利用するものであり、それ以外の目的には使用しません。
◎学籍簿の記入は、必ず黒のボールペンを使用してください。

研究指導教員届

年 月 日

生活支援科学研究科

学専攻 年次

学籍番号：

氏 名：

印

私は、下記の先生の指導を受けますのでお届けいたします。

記

1. 研究指導教員

印

(注意)

1. 提出先： 教務課

研 究 指 導 教 員 届

年 月 日

生活支援科学研究科

学専攻 年次

学籍番号：

氏 名：

印

私は、下記の先生の指導を受けますのでお届けいたします。

記

1. 研究指導教員

印

(注意)

1. 提 出 先： 教 務 課

院 生 住 所 届

年 月 日

学 籍 番 号		氏 名	
現 住 所 (電話番号)			
現住所以外の 連絡先(職場) (携帯番号等)			
備 考			

院 生 ロ ッ カ ー ・ サ イ ド デ ス ク 使 用 届

年 月 日

学 籍 番 号		氏 名	
※ロッカー番号		※キーNo.	
貸 出 年 月 日	年	月	日
返 却 年 月 日	年	月	日
貸 出 理 由	入学による新規利用		
備 考			

※欄は、記入不要

年度 修士論文題目届

年 月 日

生活支援科学研究科

学専攻 年次

学籍番号：

氏 名：

印

私は、下記の先生の指導によって、次の題目で修士論文の作成をするのでお届けします。

記

1. 研究指導教員

(認 印)

2. 論 題

(注 意)

1. 提出先： 教 務 課
2. この届出書の記載事項を変更したいときは、速やかに「修士論文題目変更届」を提出すること。
3. 所定の期日までに提出しない者は、次年度修士論文の作成はしないものとみなします。
4. 年度は、修士論文提出年度を記入すること。

年度 修士論文題目変更届

年 月 日

生活支援科学研究科

学専攻 年次

学籍番号：

氏 名：

印

私は、下記の先生の指導によって、次の題目に修士論文を変更し作成をするのでお届けします。

記

1. 研究指導教員

(認 印)

2. 論 題

3. 変更前の論題

(注 意)

1. 提出先：教務課
2. この届出書の記載事項を変更したいときは、速やかに「修士論文題目変更届」を提出すること。
3. 年度は、修士論文提出年度を記入すること。

年度 修士論文題目変更届

年 月 日

生活支援科学研究科

学専攻 年次

学籍番号：

氏 名：

印

私は、下記の先生の指導によって、次の題目に修士論文を変更し作成をするのでお届けします。

記

1. 研究指導教員

(認 印)

2. 論 題

3. 変更前の論題

(注 意)

1. 提出先：教務課
2. この届出書の記載事項を変更したいときは、速やかに「修士論文題目変更届」を提出すること。
3. 年度は、修士論文提出年度を記入すること。

大学院学修の手引き

(大学院講義概要)

発行年月日 令和4年4月1日
発行 西九州大学教務課
印刷 株古川総合印刷



神埼キャンパス

〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9
TEL.0952-52-4191(代) FAX.0952-52-4194

佐賀キャンパス

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園三丁目18-15
TEL.0952-31-3001(代) FAX.0952-31-3003

小城キャンパス

〒845-0001 佐賀県小城市小城町176-27
TEL.0952-37-0249(代) FAX.0952-37-0259

ホームページアドレス <http://www.nisiky-u.ac.jp>

学籍番号

氏 名